

第2回「杉並区教育ビジョン2022」意見交換会 報告書

開催日：令和4年6月18日

会場：桃井第四小学校

「子どもの思いを尊重する」授業、「対話を大切にする」授業

「杉並区教育ビジョン2022」では、「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を豊かに育てていくために、「一人ひとりが教育の当事者として日常的に心がける視点」を5つ示しています。

それは、「1子どもの思いを尊重する」「2ちがいを受け入れる」「3対話を大切にする」「4学びの成果を贈り合う」「5社会を創る当事者として考える」です。

今回の意見交換会では、これらの視点のうち「子どもの思いを尊重する」と「対話を大切にする」をテーマに、授業に取り入れる良さや難しさについて、桃井第四小学校の学校運営協議会委員と全教員が考えました。



このグループは「朝」と「夜」という観点で、絵画のイメージを基にカードを並べました。

①模擬授業（1）

教員による、模擬授業を実施しました。最初の模擬授業のテーマは「子どもの思いを尊重する」。絵画のカードを割り当てられた観点に沿って並べるという図工の授業を行いました。グループごとに「明るい」と「暗い」、「暖かい」と「冷たい」など様々な観点でカードを並べましたが、並べ方に正解はありません。「自分の考えをグループ内に伝え、お互いの考えを尊重しながら話し合う。」その過程を大切にする授業となりました。

②模擬授業（2）

続いて、2回目の模擬授業を行いました。2回目の模擬授業のテーマは「対話を大切にする」。マット運動で後転がうまくできない児童を、周りの児童が「対話」によって、サポートするという体育の授業を行いました。グループでどんな声掛けをするといいかなどを話し合いました。技術的なアドバイスを話すという意見もあれば、自信をつけてもらうための声掛けをするという意見もありました。また、話す内容だけでなく、話し方も重要であるとするグループもありました。



それぞれのグループが声掛けの内容や声の掛け方を考えました。



個人の考えをグループ内で共有しました。教員から、現場で感じる課題等を教えてもらいました。



各グループで話し合われた内容を発表し、全体で課題等を共有しました。

③授業に取り入れる「良さ」と「難しさ」

模擬授業を体験した後、グループに分かれて「子どもの思いを尊重する」と「対話を大切にする」というテーマを、授業に取り入れる「良さ」と「難しさ」について考えました。グループでの話し合いの後、各グループが発表を行い、参加者で意見を共有しました。

以下のような意見が出ました。

(1)「子どもの思いを尊重する」授業の良さと難しさ

【良さ】「学びが自分事になる」「子どもに自信がつく」「思いやりの気持ちや仲間意識が育つ」「(大人が)子どもの思いを知ることができる」

【難しさ】「授業時間や学ぶべき内容との兼ね合い」「みんなの意見をまとめること」「意見を話すことが苦手な児童などすべての児童の良さをくみ取るための時間」

(2)「対話を大切にする」授業の良さと難しさ

【良さ】「自分にはない考えに触れ、考えの幅を広げられる」「悩みや不安を一緒に解決できる」「伝える力や聞く力が伸びる」「人間関係が豊かになる」

【難しさ】「いろいろな考えをどうまとめていくか」「対話に授業の時間が取られてしまう」「発言することが苦手な子への配慮」「論点がずれた時の軌道修正」

意見交換会を振り返って

今回は「杉並区教育ビジョン2022」が示す「一人ひとりが教育の当事者として日常的に心がける視点」のうち、「子どもの思いを尊重する」と「対話を大切にする」の2つをテーマに話し合いを行いました。印象的に感じたのは、桃井第四小学校の学校運営協議会委員と教員が立場を越えて熟議していた様子です。学校運営協議会と教員が日頃から一体的な関係を築きながら、「児童のため」「学校のため」という思いを共有していることが伝わってきました。

今回の意見交換会で、家庭・地域・学校がつながりながら子どもの学びを共に支えていくという「杉並区教育ビジョン2012」から続く理念がしっかりと育っていることに改めて気付くことができました。

第2回「杉並区教育ビジョン2022」意見交換会 報告書

・開催日 令和4年6月18日

・参加者 桃井第四小学校 学校運営協議会委員・教員

令和4年7月 編集・発行 杉並区教育委員会 庶務課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111